



居心地良い、賑わいある水辺空間を目指して 旧下田町の河岸端に対するアンケートを実施しました

旧下田町の河岸端とは？
旧下田町とは、昭和30年に1町5村が合併して下田町になる前の下田町のことを指し、現在のおおよそ下田市一丁目から三丁目を指します。
河岸端は、旧下田町にあたる、下田市二丁目と三丁目の東側、下田港に接する範囲を指します。
河岸端は、物揚場棧橋や、この棧橋と並走する市道大川端通線などで構成され、この市道の名前から、大川端と呼ばれることもあります。

物揚場棧橋の役割とは？
物揚場棧橋は、船を接岸して係留するための港湾施設で、昭和55年に建設されました。かつて水面には、みなと橋から下流に向かって漁船が列に並び、河岸端付近には、漁業協同組合や製水所が立地していました。

現在の河岸端は？
漁業協同組合が外ヶ岡に移転したことをきっかけに、水面に並ぶ漁船の数も減り、漁師が魚を水揚げする姿を見ることは少なくなりました。



河岸端を通してほしい
平成26年度に、都市計画マスタープラン策定のため、まちづくりに関する市民ワークショップを行いました。
このなかで、旧下田町の昔の雰囲気を残した河岸端を、歩いて楽しい空間にして市民や観光客に通ってもらいたいという意見が多く出されました。このワークショップ終了後から、地元有志の方々と建設課で、「下田・本郷地域まちづくり実践会議」と称して、河岸端の課題は何か、どのようなになってほしいのか、会議を重ねてきました。

河岸端のこれからを考えるきっかけに「プレイスメイキング実証実験」

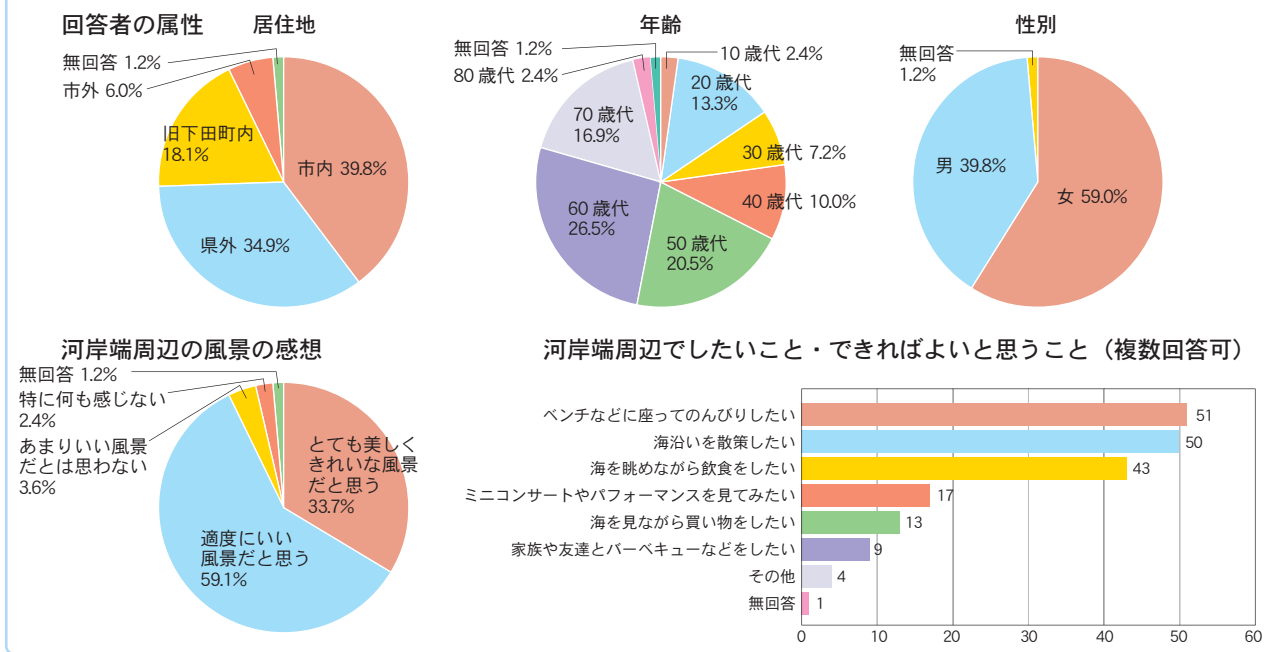
昨年11月19日(日)に、下田・本郷地域まちづくり実践会議で重ねられた意見を基に、プレイスメイキング実証実験を実施しました。
プレイスメイキング実証実験とは、ある特定の場所を魅力的な空間にするため、期間限定で実際に場づくりを行ってみる事です。
河岸端が港湾施設としてだけでなく、居心地の良い賑わいのある水辺空間とする方法を考えるために、一日だけ椅子とテーブルを物揚場に並べてコーヒーを提供し、立ち寄ってくださった方々に河岸端

に対するアンケートを行いました。
実証実験は、会議のメンバーと建設課、地域まちづくり研究所のほか、会議のメンバーの声掛けによって集まってくださった方々と一緒に実施しました。
協力してくださった方々や、当日お越しくくださった方々、アンケートにご協力くださった方々に感謝するとともに、アンケート結果の一部を下記にご報告します。
詳細についてはお問い合わせください。市ホームページをご覧ください。



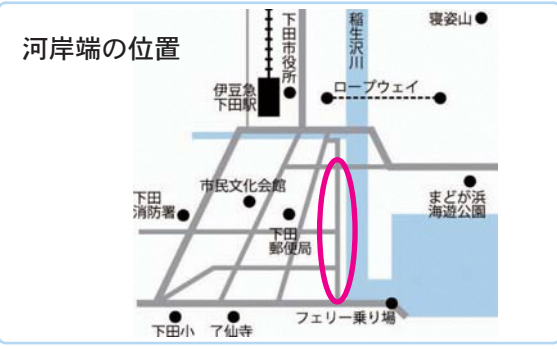
「プレイスメイキング実証実験」アンケート結果

〈調査概要〉 実施日：平成29年11月19日(日)
対象者：プレイスメイキング実証実験来場者(83名)



河岸端のこれから

河岸端については、これまでの地元有志の取組を受け、まどが浜海遊公園から河岸端にかけての連携と活性化を考える官民組織「みなとまちゾーン活性化協議会」でも議論することとなりました。
今回のアンケート結果を活用しながら、居心地の良い賑わいのある水辺空間を目指し、河岸端利用者と十分な調整を図りながら、来年度も改善に向けて取り組んでいきます。



問合せ先 建設課都市住宅係
☎ 22219